



作型名	夏秋ギク栽培（高冷地、ハウス）
-----	-----------------

作型	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		品 種
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
7月咲き																								スーパードワー	
8月咲き																									飛驒精雲
9月咲き																									銀 峰
10月咲き																									神馬

↑：冬至芽伏せ込み ◆ 冬至芽摘心及び保温 ↓：挿芽 ●：定植 ×：摘心 ■：収穫

○技術体系設定の前提条件

(1) 対象地域

山間部冷涼地（標高 400～800 m）：飛驒地域、中濃地域、東濃地域

(2) 立地条件

① 気象条件

開花期は台風時期にあたる7月～8月上旬の平均気温がおおむね23～25℃の冷涼地に適する。降雨が多いところもあるので品質向上のためハウス栽培とする。また厳寒期は可能な限り加温設置を導入する。

② ほ場条件

水分要求は大きい为上根でもあるため湿害を受けやすい。堆きゅう肥で土壌改良した肥沃な砂質土壌が保水力、通気性に富み最適である。とくに水田転作畑では高うね、暗渠配置など多面的な排水対策が必要である。転作田作付けの初年度は十分な量の堆肥と必要の応じて苦土石炭とようりんなどのりん酸資材を投入し土壌改良を行う。

(3) 栽植本数

13,400本

(4) 目標収量

40,000本（秀品 32,000本以上）

○肥料基準

(1) 肥料基準量（成分）

肥料成分	本 ぽ（10 a 当たり 成分量・kg）			育苗ほ（kg / m <sup>2</sup> 当たり）		
	総 量	基 肥	追 肥	総 量	基 肥	追 肥
窒 素	23	23	草勢が低下した場合に実施する	1.6	1.4	0.2
り ん 酸	23	23		2.2	2.1	0.1
加 里	23	23		1.6	1.4	0.2

【施肥設計及び施肥上の注意事項】

- 1 施肥設計に当たっては、土壌調査（pH、有効態りん酸）を行って土壌改良を行う。
- 2 施肥前にたい肥 10 a 当たり 4 t 施し、基肥のうち、三要素各 10kg は緩効性肥料を施用し、全面全層施肥とする。
- 3 施肥設計にあたっては、堆肥中の有効成分を測定し、それを施肥基準から差し引き肥料の施用量を決定する。
- 4 冬至芽伏せ込み床の追肥は、かん水時に液肥 500 倍液を施用する。